

ジュニア賞

ちいさい、こども。

原 深唯 (高校2年生：岡山県)

1歳児～6歳までのちいさなこどもになれる、体験型VRゲームです。すべり台やブランコなど、何もかもが大きく見えるため、好奇心が駆られることでしょう。ですが、「たのしい」ものには「きけん」が隠れています。1歳児～2歳児までの子どもは視力が乏しく、6歳くらいまでの子どもは、大人に比べて視野がとても狭いです。そのため、遊具におでこをぶついたり、周りが見えておらず、車に轢かれそうになったりと、危険がたくさんあります。また、二歳以上の不慮の事故ランキングでは「交通事故」が年々、一位となっています。

しかし、私たち大人には、今更「子どもになって危険を見つける」ことなんてできません。そこで、VRを使った、子どもの目線や視力を再現し、かつ家や街を冒険するゲームを作ること、周りにある様々な「きけん」を自然に体験できるゲームを考えました。このゲームでは、子どもの年齢の視力や視野に合わせて画面をぼやかし、見える範囲を小さくします。また、平衡感覚や歩くスピードなども年齢に合わせ、より「ちいさいこども」体験ができるようにします。ゲーム内では「やってはいけないこと」がありません。つまり、ゲーム内では自由に動き回れます。だからこそ、好奇心の思うままに動けるため、今まで気づかなかった子どもならではの「きけん」に、私たち大人が気付くことができます。

このゲームをすることによって、私たちは子どもの視点に、簡単に立つことができます。それにより、保護者は子どもを守るために、より具体的な対策を練ることができます。また、子ども向けの商品を開発する企業や、家具を開発する企業はより「子どもにやさしいモノ」を作ることができます。車の運転手も、子どもの特性をよく知った上で運転することで、子どもの交通事故を減らせるかもしれません。このゲーム一つで、救える命があるかもしれませんね。活用先は無限大のゲームとなっています。